

ひびき

教育目標：「なかよく かしく たくましく」
3本柱：さわやか挨拶 聞き方・話し方名人 いきいき運動

多治見市立共栄小学校 H29. 11. 30

「あいがとう」であふれる毎日に！

校長 楯 明夫

めっきり寒くなってきました。今年も残すところ1ヶ月です。いよいよ本格的な冬がすぐそこまできています。インフルエンザも心配な季節にもなってきました。子どもたちが健康で元気に過ごせるようがい手洗いなど、ご家庭でもお声かけをよろしくお願いします。

「ありがとう」が飛びかう学校に、そんな願いのもと、本年度がスタートしました。6年生は、最高学年としての自覚をもち、昨年の今頃とは見違えるほどの成長をしてくれています。素敵な姿が多くなればなるほど、認め合いの言葉や称賛の言葉が飛びかいます。温かな仲間関係の中で頑張ることを大切にする心が育ち「ありがとう」の姿は増えていると確信しています。

「当然のこと」から「～してくれてありがとう」へ

私も3人の子がいます。小さい頃は、存在そのものが愛おしいと感じていたものの成長するにつれ「勉強しろ」「手伝いしろ」「まだやっていないのか!」と叱りつけることが増えていったものです。今も末っ子である高校3年生の娘に対して口やかましく言うため、会話の少ない典型的な父娘関係ができあがっています。子育ては難しいですね。保護者の皆さんまだまだ続きます。一緒に頑張りましょう。

また、振り返ってみると教員としても掃除をさぼっている姿は叱っても、掃除をしている姿に「ありがとう」とは言ったことがありませんでした。それらは「当然のこと」と思っていたからです。こちらが当然のこととできていることができていないと、不満や怒りの感情が先に生まれます。つい「こらっ!」という声が出ます。子どもの「やる気」は、どんどん失われ、義務感、責任感が先行し、「何のために…」という大切な目的意識を奪ってきたのかなあと反省する毎日です。

今、校長室に6年生の二人の子が掃除に来てくれています。黙々と時間いっぱい掃除をしていてくれます。彼らにしてみれば、役割なのですから当然なのかもしれませんが、あまりにもうれしい姿なので、きれいにしてくれたことに対して素直に「ありがとう」と言葉をかけることができます。そんな気持ちから、先日毎日風呂掃除をしている娘に当然とは思わず「ありがとう」と言ってみました。戸惑ったような顔をしながら「先に入って、」と返事が返ってきました。校長室掃除の子たちのおかげで父娘関係も少し好転したかな?家でもちょっと照れるけど「ありがとう!」を使っていけるよう努力したいと思っています。

子どもたちは、やはり「あなたがいてくれてありがとう」そんな存在なんだと共栄小学校の子どもたちは教えてくれます。

